研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-139		17-104	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之

題名（原題／訳）

Change in Alcohol Intake in Relation to Weight Change in a Cohort of US Men with 24 Years of Follow-Up.

24 年間追跡のコホートにおけるアメリカ人男性の体重変化とアルコール摂取量の変化との関連

執筆者

Downer MK, Bertoia ML, Mukamal KJ, Rimm EB, Stampfer MJ.

掲載誌

Obesity (Silver Spring) 2017 Nov; 25(11): 1988-1996. doi:10.1002/oby.21979.

キーワード	PMID
アルコール、体重変化、男性、アメリカ	28940996

要　旨

目的：

アルコール種類別に長期間の体重変化への影響を前向きに追跡した研究は今までにない。本研究では、長期間の体重変化におけるアルコールの潜在的な影響をアルコールの種類別に検討した。

方法：

Health Professionals Follow-Up Studyにおいてアメリカ人男性を1986年から2010年にまで4年ごとに追跡し、アルコール(全種類、ワイン、発泡酒、ビール、リキュール)摂取量の変化と同期間の体重変化を調査した。一般化線形モデルを用いてアルコール摂取量増加(1杯/日)に対する平均体重変化を算出した。なお、解析は年齢・生活様式の変化・食事の共変量・循環器疾患危険因子で調整した。

結果：

解析対象者は、男性 14,971 人であり、平均 3 回（計 44,603 件）の調査結果を用いた。全アルコール・全ビール・ビール・リキュールの 4 年間での摂取量増加はいずれも直接的に体重増加と相関していた。各アルコール種類の 1 杯/日増加に対する 4 年間での平均体重変化は以下の通りであった：全アルコール 0.23lb(95%CI: 0.10-0.35)・全ビール 0.29lb(95%CI: 0.08-0.51)・ビール 0.61lb(95%CI: 0.22-1.00)・リキュール 0.28lb(95%CI: 0.09-0.48)。同様に、ワインと発泡酒では、それぞれ 0.16lb(95%CI: -0.04-0.36)と -0.38lb(95%CI: -0.17-0.08)であった。また 55 歳以下の男性で、上記の傾向が強かった。

結論：

アルコール消費量の増加は、臨床的意義のない程度ではあるが、軽度体重増加と相関していた。アルコールの種類による体重増加に対する影響の差は大きくなかった。過度のアルコール消費者では、体重増加のリスクが大きいと考えられる。